

試してみたい錯覚体験①

ブッダの耳錯覚

耳があり得ないほど伸びる！

① 上の手で耳たぶを下に引きながら、

体験者は、相手の動きがぼんやり視界に入るようなイメージで、リラックスした状態で前方を向く。実験者は、上の手で体験者の耳たぶを軽くつまんで下に引っ張る。

② 下の手で「見えない耳たぶ」を、みょーんと下にスライドさせると？

(上の手で) つまんだ耳たぶを下に軽く引っ張ると同時に、ちょうど耳たぶから出ている「見えないヨーヨーの糸」を引くようなイメージで、つまんだふりをした下の手を、めいっぱい地面に向けて直線的にスライドさせる。

③ 耳たぶがめちゃくちゃ伸びているように錯覚する！

引っ張ったり戻したりを何度も繰り返していると、体験者は、耳たぶが、実験者の手の動きと連動して下側に長く伸び縮みしているような錯覚を覚える。

④ スライドした下の手をぱっと離すと？

つまんだ耳たぶを引っ張ったままで、空中でスライドさせた下の手をぱっと離すと、耳たぶが伸びたままフリーズするような感覚が得られる。



←動画が
みられます
(小鷹研究室)

【補足】第5章で解説する「スライムハンド錯覚」の原理を、耳たぶの皮膚に応用した錯覚。風船などのゴム素材を耳たぶにはさんで引っ張ることで同様の皮膚伸び感覚が得られるが(動画参照)、伸びる距離は制限される。イラストのように、何もない空中で引っ張る方法であれば、人によっては際限なく耳たぶが長く伸びていく感覚が得られる。下方向だけでなく、あらゆる方向に伸び縮みが可能。

第5・7節で解説

試してみたい錯覚体験③

グラグラスワップ

自分の指と相手の指が入れ替わる！

① 2人の左手の人差し指を向かい合わせる。

対面する2人が、内向きにした左手の人差し指を向かい合わせにして、お互いの指の先端がぎりぎり触れないように、机に手を置く。



② 2人同時に、相手の人差し指の第一関節付近をぐりぐり転がす。

空いている方の手の二本指の腹を、相手の人差し指の第一関節付近に押し付け、2人で同時にぐりぐりと前後に転がす。以上を目を閉じて行う。



③ 自分の指をぐりぐりしているようなイメージを強く念じる。

(しばらく何も感じられなければ)ぐりぐりしながら、心の中で「相手の指ではなく自分の指をぐりぐりしている」イメージを強く念じてみる。



④ あきらめずに、さらに強く念じてみると、



⑤ (相手ではなく) 自分の指をぐりぐりしているように錯覚する！

ぐりぐりしている指が、相手の指から自分の指へとシュッと瞬間的に移動するよう感じられると同時に、自分で自分の指をぐりぐりしているような錯覚に陥る。相手も同じことを感じているかも？



←動画が
みられます
(小鷹研究室)

【補足】第2章で解説する「セルフタッチ錯覚」の仲間。2人が同時に錯覚を体験できる。2人の触圧の強弱をなるべく揃えてあげることがポイント。メトロノーム等を使って同時にタッピングすることでも同じ錯覚が得られるが《トントンスワップ》、指を押し付けぐりぐりさせるこの方法では、無理なく2人のリズムを合わせることができるのでおすすめ。人によっては、人差し指が長くなる感覚を強く覚える。

第2・1節で解説



(BPM 100~120)

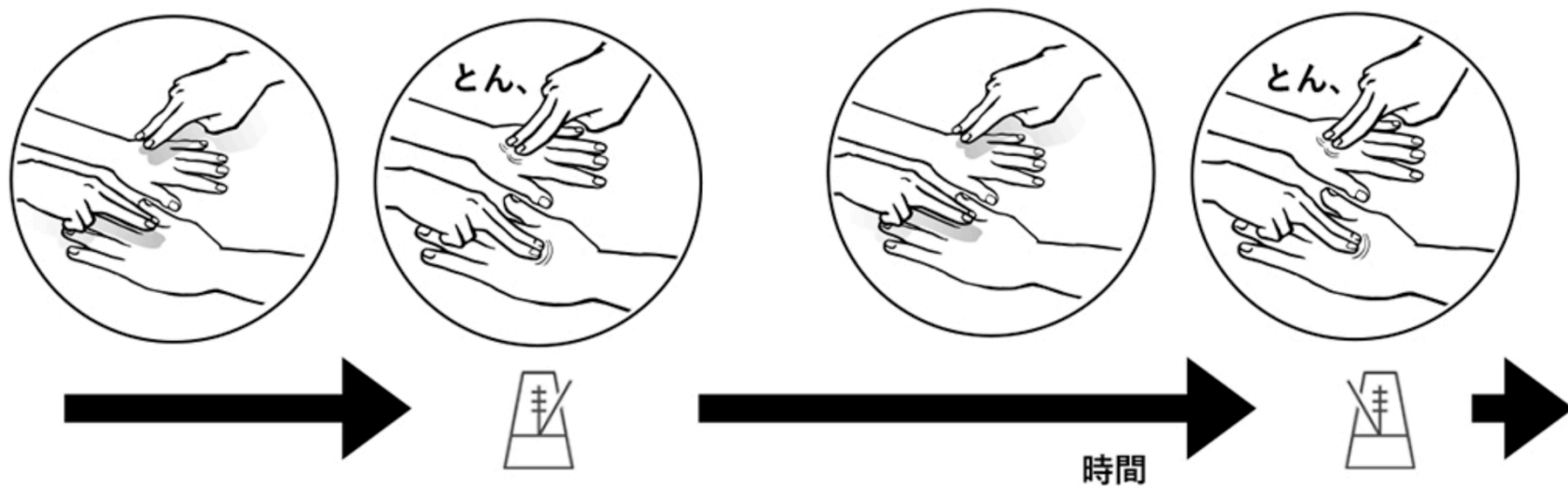


図 2-1 トントンスワップ



図 2-5 セルフタッチ錯覚におけるドリフトの様態

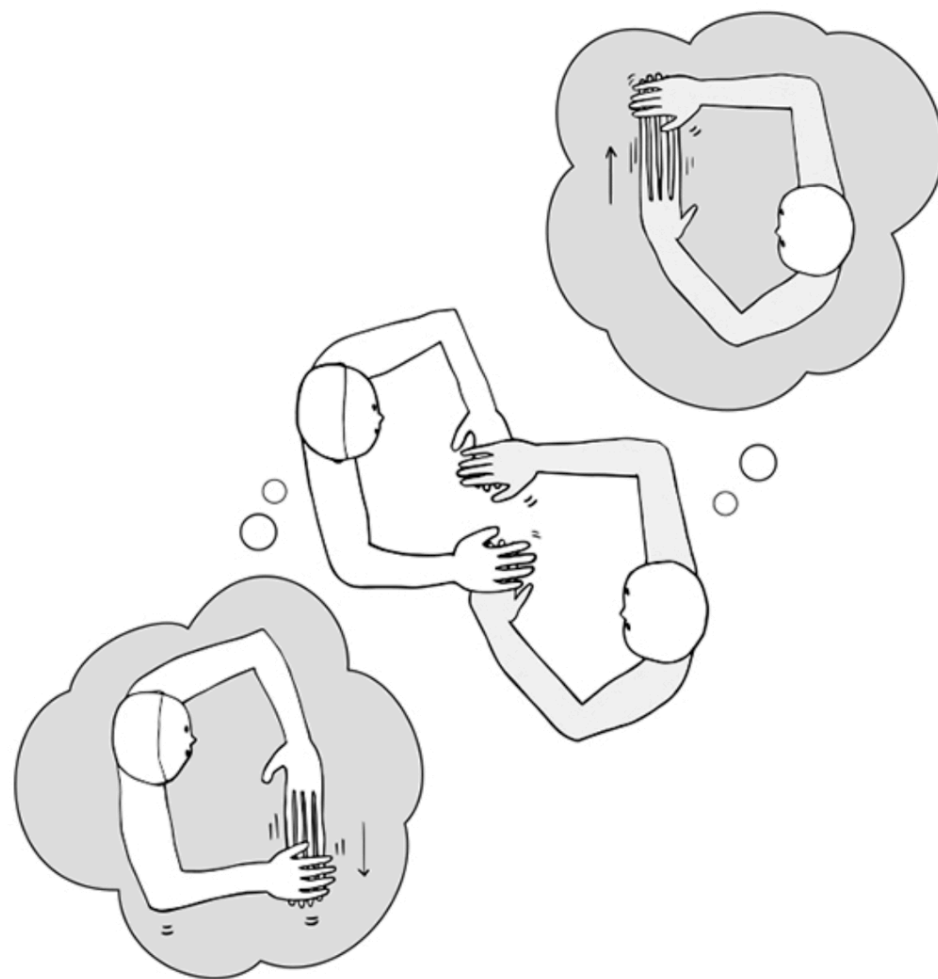


図 2-3 ダブルスクラッチ

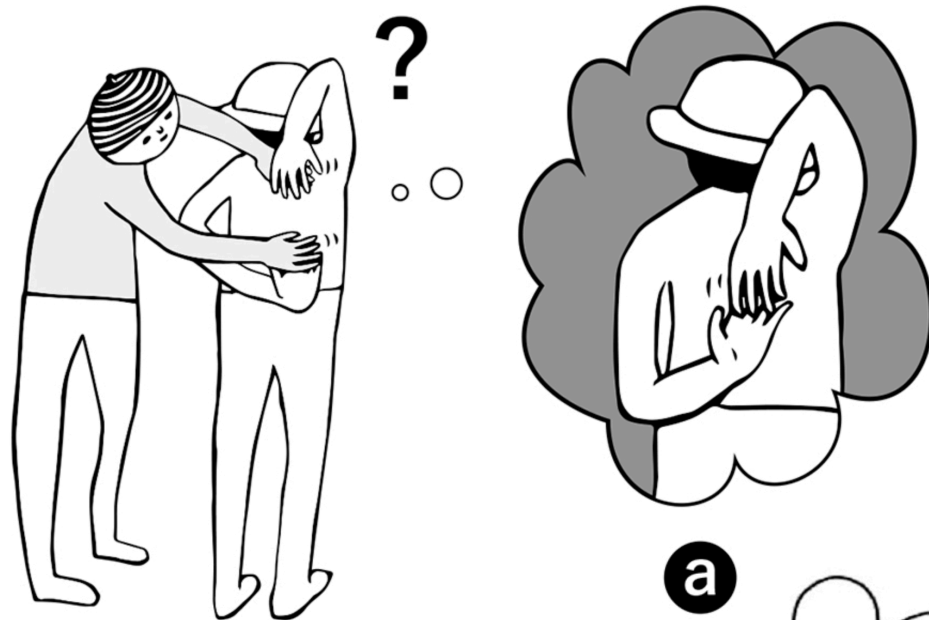


図 2-7 BACK HAND LOCK HELPER

a



b



c



d



e



f

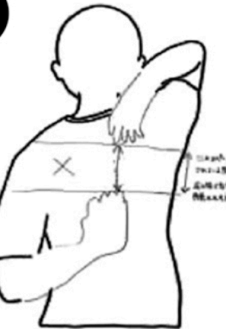


図 2-9 BACK HAND LOCK HELPER における主観的な身体変形イメージ (実験参加者による作画)